

# Japio YEAR BOOK 2019

## 発行にあたって



一般財団法人日本特許情報機構  
理事長

松井 英生

Japio YEAR BOOK は、平成 17 年の創刊以来、特許情報に関する施策や取組、機械翻訳や特許検索等のテーマを中心に、各界第一線でご活躍の皆様からご寄稿いただくとともに、関連するシステムとサービスの情報を合わせてご紹介する「年誌」として、発行を重ねてまいりました。今年も、特許庁、独立行政法人工業所有権情報・研修館、賛助会員、歴代の財団役員、評議員及び関係各位の皆様のご支援を賜りつつ、Japio YEAR BOOK 2019 を発行することができましたことを、心より厚くお礼申し上げます。

2019 年 5 月 1 日、いよいよ新元号「令和」の時代が幕を開けました。「昭和」から「平成」、「令和」への時代の移り変わりと共に、産業界、特許情報業界にも大きな変化が訪れています。これまで「モノ」の製造・販売を中心に進化してきたビジネスは、「サービス」や「コンテンツ」の分野へ拡がり、ユーザーの関心も「モノの所有価値」から、「使用価値」、「コンテンツやサービスの体験価値」へシフトしつつあります。また、米中知財戦争の熾烈な争いの中、海外の知財情報をいかに分析し、活用していくかが問われる時代となっています。経済、貿易のカギを握る知財情報を扱うものとして、我々は新しい時代に柔軟に対応し、ユーザーの皆様にも真に必要なとされる情報、サービスを展開していく必要があると考えています。

一方で、人工知能技術の進展は目覚ましく、テレビでも新聞でも電車のつり広告でも、人工知能（AI）という単語を見ない日はありません。ありとあらゆる分野に AI 技術が適用され、様々な形で話題となっています。この様な背景をふまえ、今年度の特集テーマは「特許情報分野における AI 活用のススメ」といたしました。特許情報業界ではここ数年、人工知能技術の適用が研究されており、Japio でも研究を進めてまいりましたが、いよいよ、各産業の現場への AI 技術の適用・活用方法を具現化するフェーズに入ったと考えています。

本誌に掲載された記事や情報が、特許情報の活用や研究技術の発展につながると共に、皆様も時代に先んじていくための一助となれば幸いです。

今や特許情報は研究開発戦略のみならず、経営戦略にとっても重要視されています。このように、特許情報への期待が一層高まる中、産業財産権に関する質の高い情報を提供することにより経済・社会の発展に貢献するという当財団の経営理念に立ち返りつつ、皆様のご期待に応えられますよう、職員一同、専門性を磨き最善を尽くす所存であります。今後とも皆様のより一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。